

＊第16回うずしお福祉フェスティバル

＊第10回市民活動交流研修会

平成24年1月29日（日）キョーエイ4階イベントホールにて開催

◎開会式



◎ガールズヒップホップグループ「バニティー」によるダンス



◎「グランファーム保育園」の皆さんによる手話コーラス



◎デフ・マジシャン 「ミスターかわづ さん」のマジックショー



◎記念講演「カラーユニバーサルデザインを学ぼう」

記念講演 「カラーユニバーサルデザインを学ぼう」

NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構

視覚情報デザインコンサルタント

伊賀 公一 先生



氏 名	伊賀 公一 (いが こういち)
活動団体名	NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構 (CUDO)
所 在 地	〒 101-0021 東京都千代田区外神田1-1-5 昌平橋ビル 3階
連 絡 先	電話：03-6206-0678 (NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構)
プロフィール	視覚情報デザインコンサルタント、1955年生まれ 徳島県出身 強度の色弱者で1級カラーコーディネーター(商品色彩)DTP講座講師、 ITベンチャー役員、コンサルタント等を経て、NPO法人カラーユニバー サルデザイン機構(CUDO)の設立に参画、CUDOの副理事長・専属テク ニカルアドバイザーとして現在活躍されています。
CUDマーク の意義	 様々な利用者を想定したユニバーサルデザインでは、設計者が一生懸命工夫して配慮したつもりなのに、その配慮が当事者にとっては効果がなかったり、むしろ逆効果だったりすることが、残念ながら起こります。カラーユニバーサルデザインにもこのような例が見られます。色弱者は鮮やかな色なら見分けやすいだろうという誤解から派手でどぎつい配色にしてあるが、実は色弱者が混同しやすい色の組み合わせが随所に見られるようなデザインや、逆に色弱者は色が全然分からないのだろうという誤解から色数を極端に減らしてしまった単調なデザインが、カラーユニバーサルデザインとして提案されていることがあります。真のカラーユニバーサルデザインは、色相・彩度・明度の差を上手に組み合わせ、形や塗り分けパターンの違いを併用することによって、色を存分に使い、見た目に美しく、なおかつ一般色覚の人にも色弱者にも同じように、情報が読み取れるデザインです。当事者の立場からこのような優れたデザイン実現に協力し、その成果を積極的に評価して他と差別化するために、CUDマークが生まれました。

◎講演の様子



◎車いすの贈呈

「リサイクル山田」から「板東の丘」へ車いすの贈呈が行われました。



◎市民団体による意見発表

(医) 敬愛会

地域活動支援センターオリーブの木



すだち連



デフコミュニティろうわ



◎ボランティア活動報告
鳴門第二中学校 広報・ボランティア委員会



◎ボランティア活動報告
鳴門高校 国際理解部



*ボランティア・NPOマッチングフェア



福祉機器紹介コーナー



NPO法人 ふくろうの森



鳴門市第一中学校ボランティア部



花街道・地域づくりネットワーク



鳴門市婦人連合会



なぎさ寮・デフコミュニティろうわ
徳島県筆記通訳者協会鳴門支部 めだか



新池川をきれいにする会
小鳴門荘



NPO法人JCI テレワークズ ネットワーク
NPO法人ハーモニー
「人・豊かな街づくり」



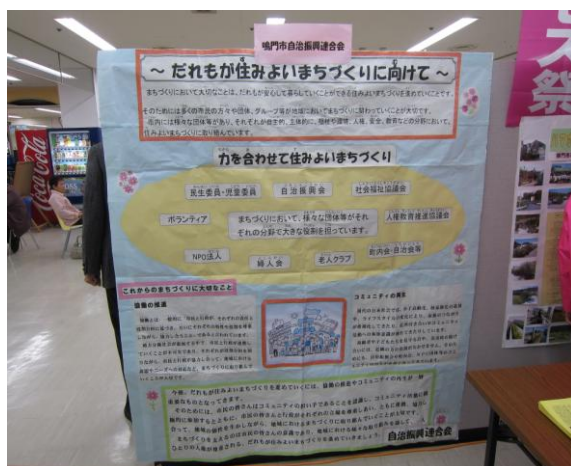
板東の丘・草の実学園
NPO法人コスモスハウス



すだち連・パンダの会・汽車公園を愛する友の会



鳴門市自治振興連合会



鳴門市市民協働推進課



◎閉会式

